

(様式1-表)

令和6年度 特色ある学校づくり推進事業 計画書

学校番号	63	豊田市立 佐切小 学校	代表	戸田 裕子
------	----	-------------	----	-------

※分野【a: 国際交流・国際理解、b: 地域連携、c: 自然体験、d: 環境教育、e: 学力向上、f: 交流体験、g: 福祉・ボランティア、h: 伝統文化、iその他()】から選ぶ。

テーマ	動植物をいづくしみ、豊かな心と体を育てる佐切ワールド	分野	i	その他
サブテーマ		[(その他)は分野を右欄に記入]		動物飼育
学校づくりの視点(ねらい)	<p>○保護者や地域の方と連携し、地域ぐるみで動物や植物を育て、命の教育をすすめる学校づくり。</p> <p>○佐切小学校に縁のある方々や有用な人材・題材を取り入れた教育をすすめる学校づくり。</p> <p>○学習環境の整った中で、教育効果の高い学習をすすめる学校づくり。</p>			
活動内容・計画	<p>1 日常の活動 … (1) 動物の餌やりや飼育舎の清掃 (2) 動物の体調観察 (3) 動物の生活環境の整備 (4) 野菜と花の栽培</p> <p>2 特設の活動 … (1) 動物川柳句集の募集(12～1月) (2) 動物フェスティバル(2月) (3) 動物川柳句集の発行(3月) (4) 藤嶋文庫および岩崎京子作品の活用(年間を通して)</p> <p>3 授業での活動 … (1) 学級園での野菜づくり(4月から年間を通して) (2) 動物の生態調査(4月から年間を通して) (3) 活性酵素(マイエンザ佐切)づくり(8月 9月 1月) (4) 保護者・地域住民への佐切堆肥(ぐ～んベジ)販売(7月～11月) (5) 佐切堆肥(ぐ～んベジ)の県外への発信 (6) 佐切堆肥(ぐ～んベジ)の制作会社経営 (7) 動植物を育てる活動と実践(4月から年間を通して) (8) 地域の人材を講師としたクラブ活動(年間5回) (9) 学校園でのサツマイモ栽培(5月～11月)</p>			
補助員配置	・校内整備員			
実績・期待される効果	<p>・動物を育てる活動は1981年に始まり、令和6年度は43年目を迎える。この活動により、動物はもちろん、児童自身や周りの人々を大切に思う気持ち、生命尊重の心が育っている。</p> <p>・児童は、仲間と協力して動植物の世話をしたり飼育舎の清掃をしたりする中で、責任をもって役割を果たすと共に、進んで行動することができるようになってきている。</p> <p>・佐切堆肥(ぐ～んベジ)を地域から地域外へと配布・販売活動を通して、児童と足助地区、堆肥を活用された市外の方々や西山公園施設など、多くの様々な方と交流する機会が増えることで、自分たちの活動が役立ち、地域の一員であるという自覚をもてるようになってきている。また、新しい飼育活動の目標を実現しようと努力する姿が見られ、活動内容に賛同される方も増えている。</p> <p>・本校の卒業生である岩崎京子さんの絵本『ヤギのリリのおくりもの』(昭和63年発行)や同じく卒業生であるノーベル賞候補の藤嶋昭先生の文庫を本校の財産の一つとして、大切にしていこうとする児童や保護者・地域の方が増えてきている。</p> <p>・校内整備員の配置は、飼育舎や花壇などの整備にも効果があり、児童にとつてのキャリア教育につながる。</p> <p>・花いっぱい学校を目指す活動を通して、環境を整えるために学校・家庭・地域ぐるみで協力し合う教育の推進が図られている。</p>			
検証方法	<p>・飼育・栽培日記には、児童の取組と成果があらわれているか。</p> <p>・動物川柳を通して、保護者や地域と学校の結びつきが深まり、動物への愛着がさらに生まれたか。</p> <p>・保護者アンケートには、本校の特色ある活動のよさが記述されているか。</p> <p>・動物フェスティバルでは、諸活動に関わっていただいた方々に向け、児童が命と向き合った体験的な学習内容の発表ができていくか。</p> <p>・堆肥の配布や販売によって、地域および地域外の方に喜ばれる経験を通して、環境教育、キャリア教育につなげることができたか。</p> <p>・植物栽培を通して、児童が世話をすることに喜びや発見を見出すことができたか。</p>			